12 de Julho de 1918 No. 45

Noticias do Brazil

大正七年七月十二日　金曜日　第四十五號

伯剌西爾時報

NOTICIAS DO BRAZIL
Publicado semanalmente
Rua Conselheiro Furtado No. 39
Caixa Postal H
S. Paulo, Brazil
Proprietario e editor
Seisaku Kuroishi

Assignaturas
por Anno ——— 10$000
„ Semestre ——— 5$500
„ Mez ——— 1$000
„ Semana ——— $300

新來の移民諸氏に一言す

昨日接手せる電報に依れば、吾々の鶴首して待つてゐた千八百有餘名の我が移民諸氏は、去る一日若狹丸にて無事ケープ、タウンに寄航し、三日同港拔錨サントスに向つたとのことである、若狹丸は伯國通ひの移民船として古き歴史を有し、船長以下乘組員諸君の優秀なる技倆と、松田輸送監督の親切なる取扱とは、能く吾々の心を安んずるに足べきも、何分にも長路の航海、印度洋の暑さ船中不馴の生活、果して一同の上に恙なきや否やは、多少心配なきを得ない處である。

然るに今や全航海の九分九厘を無事に經過し、來る十六日を以て最終港へ到着の豫定なるを聞き、衷心歡喜に堪ない次第である、諸氏は生活難の日本より生活易の伯國に向つて渡航の途中、前途の仕事に對し種々想像もめぐらし、理想も描かれたであらうが、不日愈々サントス港に安着の後移民收容所に移り、更に耕地に遠征を爲すに於て、諸氏は理想と實際とを對照して如何に感ぜらるゝかは、吾々一日の長として今より之を想像し得るのである。

何人も世に身を處するに於て、夫れ〳〵理想を抱かぬ者はなからうが之を實現するには種々樣々な障害と困難とが前途に横はり、容易に其の目的を達し得させないものである、故に薄志弱行の徒は中途にして倒るゝか、變更するか若くは小成に安んずるに至るので、偶々或る理想に達した者がありとすれば、其の者は必ず百難を排して達したので、決して尋常一樣の苦心でないことは明かである。

之と同じ理窟で、如何に伯國は天惠の豐かな大富源國であつても、唯だ一邊の理想通りに、譯もなく滑らと行くものではない、必ず其處には、時間と、忍耐と、努力とが必要で、長く耐へ忍んで努むる者でなければ、到底成功は覺束ないのである、但し日本と伯國との相異する所は、日本は稼ぐに追いつく貧乏神と云ふ狀態に反して、伯國は氣長に順路を踏んで刻苦勉勵せば、何人にも或る程度までの成功は達し得られるのである。

所が新來の移民諸氏の中には、單に伯國へ來ると云ふことは一攫千金濡手に粟を意味すると誤解し、耕地に行くや否や耕地の總てが自分の意に充たずとして、不平を抱く者もあらうが、ゐは深く考ふるまでもなく不平を唱ふる人の間違で、いかに伯國と雖も經驗も積まず、工夫も凝さず、一躍忽ち理想に達することの不可能なるは自明の道理である。

然し新來の諸氏には幸いがある、諸氏は移民收容所に於て船中の疲れを醫し、愈々耕地に向つて出發せば到る所同胞の先輩がゐて諸氏を手引する、而かも其の先輩は、一年よりも二年、二年よりも三年、三年よりも五年と、此の國に在留の歳月が長ければ長き程好成績を擧げ、即ち急がず慌てず能く初めの困難に耐へ忍んで、努力するに歳を以てせば、必ずや大なる効果の收め得べきを示してゐる、故に新來の諸氏は之に見倣い、理想は暫く腦中に藏めて、現在は先づ義務を果すに全力を盡すと共に、眼を先輩の示せる實跡に濺ぎて徐々と進行するに於ては、其の成功や疑いなしである。

要するに伯國は半開の大富源國として、吾々の運命を開拓するに最も好適の場所である、而かも新來の諸氏に對しては二萬の先輩到所模範を示して缺所がない、諸氏の目的の成不成は一に係つて先輩の實跡に法ると否とにあるを肝銘すべきである。

◎寄書

大國民と大國民的精神（上）

荒井金太

ドミニウム、ムンデイ」とは古き羅馬の榮ゑたる時代に、羅馬人の間に熾に唱へられたる言葉であるが、凡そ一國民にして、天下を統御し又世界を支配せんとする大抱負を有する國民を大國民と呼び、其大理想を大國民的精神と稱するのである。

古來各國民の歴史は、吾人に此の大國民的抱負が、各方面に發揮せられて居る事を教ゑて居るのである、古き猶太の民族は宗教を以て世界を統一せんと企て、希臘民族は哲學を以て世界を風靡せんと圖り、又羅馬人は法律を以て天下を支配せんと計つたのである、而して猶太の宗教、希臘の哲學、羅馬の法律の進歩發達は洵に驚くべきものであつて、世界の各國は數千年後の今日に於ても、尚ほ其惠澤を謳歌して止まざる所であるが、然かも此等の貴き遺産を吾人に與へたる、猶太、希臘及び羅馬は爾來國民として、果して如何なる運命に遭遇せしか、可憐し、彼等は其偉大なる抱負又は理想にも拘らず、啻歴史に其名を殘して居る計りなる有樣である、又中世に到りて、亞剌比亞人は、古代の「フエニシヤ」人が商業を以て世界を支配せんと計畫したるが如く、農業を以て天下を取らんと謀り、八世紀頃より十五世紀頃に掛けて北部亞弗利加より、南歐羅巴の地方に亘りて、盛に發展したものである、彼等が建設せる「コルドバ」の大學は、當時學問の中樞と稱せられ、歐洲全部の學生を收容した位であつたが「グラナダ」の陷落と共に、遂に彼等は亞弗利加の一端に驅逐せられ、復再び立つ能はざるに到つた、又更に吾人が觀察を近世に走らせて、之を考ふるに、十六世紀より十七世紀に掛けて、世界の大國と歌はれたる者は、西班牙帝國である、當時其領土は世界の東西南北に跨がり「西班牙の頗土には日の沒する事なし」と誇稱した位であつたが其國民は軍國主義の發展は世界を支配する所以であると心得、頻りに戰爭を敢てし、「カルロス」一世が「カール」五世として獨逸の皇帝となつた時分には、西班牙の勢力は實に全世界を震動した程であつたが、其子の「フエリツペ」二世の時代に到りては、最早新世界の領土よりは、金銀を取り盡してしまい、國寶は悉く軍資となつて放散せられ、國民は上下共に疲弊の極に達し、曾つては天の頂上にまで登りたる西班牙の勢力は僅々五十年を經ざるに、早く既に地の絶底に墜落し、爾來國勢は益々萎微し、十九世紀の始めより漸次其領土を喪失し、九十七年の巴里會議に到りて、憐なる西班牙は、海外全部の領土を失つてしまい、今日に於ては纔かに其本國と附近の小領土とを維持して居るに過ぎない有樣となつた。

斯くの如く古今の歴史に現はれたる大國民なる者は、孰れも其時代にありては、熾に其抱負特色を發揮したものであるが、然かも其運命が既述の如く、個人ならば、英勇の末路可憐とでも形容したき程、悲慘なるは抑々何にが故であらうか、是れ歴史家の愼重なる研究を要する一大問題であり、亦爲政者の輕視すべからざる重要事蹟であるが、吾人の觀る所を以てすれば、是等の諸國は孰れも不具の大國民であつて、圓滿なる發達を遂げたる、之を換言すれば、完全なる大國民ではなかつたのである、宗教家としての猶太民族、哲學者としての希臘國民、法律家としての羅馬人、商賣人としての「フエニシヤ」人、農業家としての亞剌比亞人、又軍人としての西班牙國民は、大國民であつたには相違なからうが、其れ以外の國民として、例へば、農業家としての猶太民族、商賣人としての希臘人、宗教家としての羅馬人、軍人としての「フエニシヤ」人、法律家としての亞剌比亞人、又哲學者としての西班牙人は、極めて小國民であつたかも知れないのである、世に均勢を缺く物が、永く其地位を保つ事能はざるは、社會學上の定理であるが如く、此等の大國民も其小國民と思量せらるゝ部分が、其の大國民たる勢力を、永く維持せしめなかつたのである、支那人の所謂尾大不掉とは此の邊の事を云ふたのであらう。

之を要するに、吾人は以上の歴史的考證に據りて、凡そ不具なる大國民又は一等國民は、永久に其位置を保つ事能はざる事及び一大國民と稱せらるゝ者は、汎ての方面に大國民たる抱負を發揮したる者、即ち圓滿なる發達を遂げたる國民たるざるべからずと云ふ結論を得たのである、彼の世界的大軍國として、曾つては列國を戰慄せしめたる大露國が、今日國民の歴史中稀有の醜態を呈しつつあるが如きは、益々吾人が結論を確認するものではあるまいか。

故に近世の先進國と呼ばれ、又大國民と稱せられて居る、英米獨等の機敏なる國民は、早く既に此等歴史的教訓に鑑み、前車の轍を踏まざらんとして、鋭意各般の進歩を計り、獨り軍國民たるを以つて滿足せず、商業國民として、工業國民として、農業國民として、將又法律家として、哲學者として、政治家として、宗教家として、圓滿なる發達を遂げ、以て其の理想とする大國民たるの實を擧げんと努めつゝあるは、隱れなき事實である、是の見地よりして吾人は、今日敵國の「ミリタリズム」を非難する前に、先づ味方の軍備の充分ならざるが如きものあるを遺憾とする者である、蓋し敵は軍人として、農業者として、商賣人として、將又學者として、藝術家として、比較的圓滿なる發達を成し居る間に、味方は總ての意味に於て大國民たるの實を擧げつゝあるにも拘らず獨り軍國民としては、充分滿足なる印象を與へないからである、然し此の弱點と思料せらる所は、長く戰爭の繼續する間には恢復せらるゝ事とも思はれ、又大に之を所望するのである。（續く）

◎義捐金募集廣告

各位益々御清穆奉賀候陳者明治四十一年我國第一回移民の來航以來我同胞中當州慈善病院（サンタカーザ）に治療を受くるもの非常に多く而かも其多數は無代施療の特別取扱を受け居る次第に有之候處之に對して我日本人側よりは從來何等感謝補助の方法を講ずるものなきは遺憾に堪へず候間茲に汎く在留同胞諸賢の御同情に訴へて義捐金を募集し之をサンパウロ市其他二三の地方慈善病院（サンタカーザ）に贈り我同胞の徽衷を表し度候間何卒御賛同の程奉冀候敬具

追て

一、募集金取扱方は帝國總領事館に依頼致候間同館宛御送金被下度候

Consulado Geral do Japão
Caixa postal 1167
S. Paulo

一、募集期限は來る七月卅一日迄と致候
一、御寄附金は各耕地に於て可成相纏め御送金被下度候
一、御寄附金に對しては一々領收書差出兼候に付邦字新聞紙上に芳名金額を掲げて之に代ゆることに致し候

大正七年五月十八日　發企者　伯國日本人青年會

（賛同者）
松村貞雄　南米社
西原清東
狩谷三市　伯剌西爾時報社
熊坂清四郎

南行紀

坂元靖

本年五月初旬、恰も來伯中の香椎浩平氏に從ひ當國南三州並に宇亞兩國に飛脚旅行の途に上りぬ、聖市を發し「リオ」に歸る三週間鐵路一千一百四十五里航程一千一百五十五浬、電光と往き石火と復る、勿論皮相の觀察たるを免れず、記載する處、若干たりとも諸賢の參考たり得れば幸なり。

讀者は伯國鐵道案内（Guia Levi と稱し黄表紙の分）附圖と對照して讀まれなば更に便ならむ

◎第一區　自サンパウロ市至クリチバ市

△マテ茶の都

五月九日午後三時四十分、聖市ソロカバナ驛發車、當國南三州へ旅出ちす、出發の際は香椎陸軍少佐の爲め松村總領事及び狩谷原口日置諸氏の見送りを受けぬ。

「サン、ロツキ」、「ソロカバ」兩驛の中間にて日は全く暮れ前途は眞の暗に覆はれにき。

翌十日、草臥れて晏起、汽車に懷しき「サンパウロ」州を離れ、驀地にパラナの大高原を南に向つて走りつゝ車外の眺め一變す、鐵道案内附圖に示せる如く、羊腸の小徑ならぬ曲りに曲れる鐵の路、半時間、一時間の後、過ぎ來し道を目前、數町の處に見ること珍らしからず、是れ此附近一大廣原にして、道は波狀地の稜線を撰みて經始されあるを以てなり。

有名なるパラナ松は、同地方製出のマツチ箱の商標にある如き格構を以て處々に繁茂し、大廣野に棲む家畜の爲めに天然の蔭を作る。

此間に牛馬點々枯草を食む、同行の香椎氏シベリア鐵道の一部にかゝる景色の處ありと說かる、徒然の餘り昨日松村夫人より頂戴し來れるスルメを嚙りつゝ麥酒痛飲すれば、隣席の鐵道技師、「兄等はパペロン」（厚紙）を食ひつゝあるに非ずや」と眼を圓くして驚けるも一興なりき。

沿道時々バーニヤの製造所並に製材所の存在を認む。

讀者と記者

◉新來の移民諸君に注意

時報記者樣私はガタパラの某耕地に居る者ですが、昨年同胞の三家族がヤハり同胞の惡漢の口車に乘せられ甲の耕地から乙の耕地に移されましたが、其家族は移つて來て見れば誘惑者の言つたことゝ實際とは月とスッポン程も異ふので、非常に後悔して居ります、殊に氣の毒なのは其中の一家族は惡漢の爲めに女房まで誘惑され出るには金はなし、殆ど進退谷まり途方に暮れて居りますが、新來の移民諸君には能く〳〵言ひきかせて入耕後惡者の甘言に惑はされて他に飛び出す樣なことの無い樣にしたいものであります（愛民生）

至極尤もである、誘惑者の惡手段の憎むべきは今更ら云ふまでもなく、其の筋にても既に取締りを嚴重にしてゐる由なれば、見當り次第法を以て處罰さるゝこと勿論であるが、尚ほ其の者の原籍及姓名が分つて居るなら本社にまで通知して貰いたい。

又移民諸氏も各自注意を怠つてはならぬ、誘惑者の甘言に欺かるゝ事己に自分の智識なきを露はすもので不面目なる次第であるが、其れに契約期間內自分の義務も果さずして他に飛び出すに至つては不都合も亦甚しいと云はねばならぬ又帝國總領事館も是等破約者に對して諸願書の證明を拒絶することになつてゐるとのことだから、其れや是れやを考へて萬〻心得違いの無いやうに望んで置く（記者）

▼衛生講話▲

素人にも應用が來出る 怪俄の手當（續）

醫師 高岡專太郎

やけど

これは火熱或は熱湯どちらでも出來た狀態に變りが無く手當も同一である、順序として

△徵候から述べる、犯された部分の深淺の程度に由つて第一度から第三度迄を區別する。

第一度の火傷 と云ふのは單に皮膚の表面が赤くなつた丈けの狀態で一番輕い場合である。

第二度の火傷 は赤く變じた皮膚の諸所に水泡を生ずるもので手當てさへ良ければアトを殘さず治る種類のものである。

第三度の火傷 は深く犯された場合で水泡なども在る傍ら潰瘍を生じ幸に治つても大抵多少のアトを殘すものである。

△輕いのは（第一度）一時痛みが劇しくても故障を貽さず治るけれど第二度のものは手當てが惡いか打棄つて置いたりすると水泡に膿を持つて治りが永びきそれから潰瘍が出來て治つた後も醜くなり頭なら毛根を破壞されて毛が生へぬ樣になる事がある特に女兒を持たるゝ親達に斯樣になつてから成人して子に怨まれたり後悔したりするのを間々見受ける事であるから最初の注意が肝要である。たとへ輕度のものでも身體の表面の半分以上に擴がる火傷をした場合は生命に危險がある。

△手當て 第一度の輕いものは屢〻家庭內に起る出來事で而かも腦まされるのは其れに由つての疼痛の爲である。

疼みを止める手段 として有合の飯粒を紙にのばして廣くベタリと張り附けて置くと效果がある、兎に角外の空氣に觸れさせぬと云ふ事が良い樣である、素人流に醬油を附ける石油或は揮發油の中に火傷した指を暫時浸けて置く方法なども試みて差支ない、普通は硼酸ワゼリンを布に塗りこれを貼布しホウタイして置く丈けで良い。

第二度の火傷即水泡の出來たものは清潔な鋏か或は針で小さく一部分を破り各々の水泡から汁を出し其後に每日一回硼酸ワゼリンを貼る、水泡の全部を破つて終ふと潰瘍が露出れて却つて疼みがひどくなるから上の皮を保存して置いて自然に治る樣にせねばならぬ、尚疼みが劇しかつたら硼酸水を濕した布を膏藥の上から當てゝ冷やすと良い、水泡に膿を持つたら一日二回位膏藥を取り換へて膿汁を永く溜らぬ樣にする。

深い火傷（第三度）の場合でも柔い布に硼酸ワゼリンを塗り一日一回貼布して置く丈けで治るものであるが擴い部分にわたり潰瘍になつて膿汁が多く出る樣ならオレーフ油百グラムにヨードホルム二グラムを混ぜたもるを良く使ふ度每振つて筆か或は羽でこれを塗り其上から清潔な布を當てゝ置くと治りが良い。

やしの木蔭

頃日サントス在留同胞百數十人がサンタカーザ寄附金のことで寄合をしてゐたさうだ、所が無智で慾張で無鐵砲な巡查どんが同じ樣な惡性の或地主と結托して金儲けの爲めに脅かしに來たまでは可かつたが、サンタカーザへの寄附金のことで寄合をしてゐるとの答辯を聽いた查公少と張合拔の姿であつたげなア、併し官服のてまへスゴスゴと引込む譯にも行かぬと思つたか二三の委員丈一寸警察まで來いとやつたので一同は怒り出し、來いと云ふなら皆んなで行かう！そこで二百足らずの大勢が勢揃ひで警察へ押掛け署長さんに會つて事の顚末を告げたら理否の分つた署長さんイキナリ惡性の查公と地主の橫面を鐵拳で二つ三つた見舞した上牢屋へ打込んで我が同胞へは署長自から只管詫びて引き揚げて貰つたとは近來の痛快事

サンタカーザ寄附者芳名並金額（第四回）

（七月三日ノ分）

○マルチーニヨプラード驛サンマルチーニヨ耕地（橋本長作氏取扱）

一金五ミル 中野藤七
一金五ミル 松田松平
一金五ミル 中尾利七
一金五ミル 片岡直吉
一金五ミル 森田松五郎
一金五ミル 農中市平
一金五ミル 園原末松
一金五ミル 大勝源木
一金五ミル 永藤吉德
一金五ミル 嶽村末吉
一金五ミル 橋本長作
一金三ミル 柳田啓太郎
一金三ミル 栗木才吉
一金一ミル 赤嶺龜
一金一ミル 赤嶺恒德
一金一ミル 國吉龜
一金一ミル 仲村渠樽
一金一ミル 上原牛
一金一ミル 同 松
一金一ミル 高良龜
一金一ミル 赤嶺松
一金一ミル 上原牛
一金一ミル 上原三良
一金一ミル 同 勇造
一金一ミル 高良龜

○セルヂーペ州アラカジユー市

一金十ミル 高橋萬次郎

○マトン驛タマンドア耕地（石神信一郎氏取扱）

一金二ミル 渡邊傳治
一金二ミル 同 留治
一金二ミル 岡田新作
一金一ミル 川橋源太郎
一金二ミル 池田三五郎
一金一ミル 岸 與三松
一金一ミル 石神石松
一金三ミル 石神信一郎
一金一ミル 長尾與市
一金一ミル 笹原高市
一金一ミル 平田伊津夫

○第二モンソン植民地

一金五ミル 山田末吉
一金二ミル 三瓶 淳
一金二ミル 齋藤伊勢松
一金三ミル 志水仁松
一金五ミル 加納二三
一金三ミル 外村宇吉
一金五ミル 川原政右衛門

○コンキスタ驛ラジヤード米作地

一金十ミル 弘中喜市
一金二ミル 木島友衛

○同驛ラジヤードマタ（瀧內官吾氏取扱）

一金二ミル 瀧內官吾
一金二ミル 渡邊彌作
一金二ミル 末次乙次
一金二ミル 清川源左衛門
一金二ミル 小田藤熊
一金二ミル 渡邊卯作
一金二ミル 肥田 林
一金二ミル 岩瀨壽三郎
一金二ミル 太田留吉
一金二ミル 伊藤藤太郎
一金二ミル 上村喜次郎
一金二ミル 山本才藏
一金二ミル 渡邊幸吉
一金二ミル 松下政雄
一金二ミル 迚田增太郎
一金二ミル 菅 喜太郎
一金二ミル 池岡鶴松
一金二ミル 福原政雄
一金二ミル 井上善八
一金二ミル 瀧內半平
一金二ミル 村田秀喜
一金二ミル 矢野軍藏
一金二ミル 佐野時次郎
一金二ミル 福崎吉助
一金二ミル 村本歌平

○サンマヌエル驛コンセソン耕地（柴垣彌三次氏取扱）

一金一ミル 渡邊彌衛門
一金一ミル 加藤榮助
一金一ミル 渡邊久治
一金一ミル 柴垣彌三次
一金一ミル 本田健次

○サンパウロ市

一金五ミル 太田吉太郎
一金十ミル 岡本龍太郎

○コンキスタ驛サンジユチン耕地（判田寛一氏取扱）

一金五ミル 福澤終藏
一金三ミル 江藤虎次
一金三ミル 後藤東八
一金三ミル 大山六太郎
一金三ミル 判田寛一

○アモンド驛ボアビスタ耕地

一金三ミル 竹下吉太郎
一金三ミル 佐々木四一
一金三ミル 蔭山 勳
一金三ミル 川村繁市
一金三ミル 齋藤保昌

○サンマルチーニヨ耕地

一金五ミル 田中彌三郎
一金五ミル 內野豐彥
一金五ミル 平井八十衛
一金五ミル 廣瀨 林
一金五ミル 林田一雄
一金五ミル 高內一次
一金二ミル 野中寅三
一金二ミル 東島文隆

小計金貳百七十二ミルレース也
累計金四コトンス百五十二ミルレース也

伯國日本人青年會

廣告

ノロエステ線內に於ける我同胞集注の中央に位するエトル、レグル驛(Estação Heitor Legrú)以南日本里數一里より二里半以內に於て綿米、豆、カンナ、コーヒ其他農產物に最も適當なる土地あり、殖民者に良好なる條件を以て賣却す、希望者は實地檢分又は下名宛御問合を乞ふ

上塚周平

Fazenda Itacoromy
Estação Heitor Legrú
Noroeste

◉わづかに八ヶ月にて利益

ノロエステ線シンシンナード、ブラガ驛クレシユマル耕地に棉栽培及び採收をなすべきコロノ家族を募集す。耕地は棉栽培の爲め既に整調したる土地を與へ手入賃及び採收賃は他耕地に比し高價に支拂ひ且つコロノには食料品買入の爲めに要する金額を前貸す。猶詳細の條件に就きては左記の處へ照會ありたし。

大正七年七月

Colonel Franco,
Faz. Cresciumal,
Est. Cincinato Braga,
Linha Noroeste.

珈琲植付受負者募集

◉場所 ソロカバナ線オリーニヨス驛バルボーザ兄弟農業會社所有の耕地に於て五年若くは六年間珈琲栽培受負を希望する家族に對し何程の樹數にても契約に應ず

◉土地 は所謂ローシヤ（紫色）にして他に比類無き生產力を有し健康に適する位置を占め飲料水又極めて良好なり。耕地は絶好なる米作地に富み且つ驛に通ずるに自働車の通路を以てす

◉受負 仕事は一千九百十九年四月に開始するものなれども希望者は豫め當耕地を視察の上愈決定せば直ちに契約保證の爲め手附を拂込み適當の時期に森林の伐木其他の仕事を許さる可し

◉當耕地 には既に諸國人より成る百五十余家族のコローノを有し其大部分は日本人なり視察者はオリーニヨス驛より電話を以てコンヅソン（馬車）の要求あらば直ちに驛まで出迎の勞を執る可し

◎日本近信

●恭子女王御輿入れ

淺野家へ御歸嫁の御日取五月廿九日と御決定

△當日畏き邊りより　勳二等を贈らせらる

海軍中將伏見宮博恭王殿下第一王女恭子女王殿下（御年二十一歳）と舊廣島藩主淺野長勳侯令孫即ち令嗣長之氏長男正五位長武氏（二十八歳）との御婚儀は昨年以來種々準備中なりしが愈々五月二十五日

▲子の日の吉辰を　卜し本郷區向ヶ陵彌生町淺野侯爵家に於て行はせらるゝことに六月公式に御決定相成りたり右につき殿下には同日午前八時三十分芝區三田臺町華頂宮御本邸御出門御參內　天皇　皇后兩陛下に御對面御暇乞を言上遊ばされ畢つて麴町區紀尾井町なる伏見宮御本邸に成らせられ御祖父貞愛親王殿下に御對面の後

▲古式に則りたる　御服裝にて御祖父、御兩親各宮殿下を始め奉り同宮家家職の御見送り中に正午同宮家御出門近衛儀仗兵の御警衛に依り同侯爵邸へ成らせられ長勳侯以下の御出迎ひを受け大廣間に於て嚴かなる御結婚の式行はせらるゝ趣なるが前日畏き邊にては殿下に對せさせられ勳二等に叙し寶冠章を賜はるべく當日は

▲御婚儀に先だち　宮家と侯爵家との間に御祝品の御交換あり又兩陛下及東宮殿下より夫々御祝品を御下賜あらせらるゝ趣なるが波多野宮相は御降嫁の趣宮內省告示を以て公示し尚森圖書頭は皇族身位令の規定に依り皇統譜中より御名を除籍せらるべしと申す

●青年の覺悟を相談

日本中から代表者千人きのふ午前八時から帝大講堂で開會

…火のやうな宣言決議…

第一回全國青年團聯合大會は五月五日午前八時より東京帝國大學法科大學八角講堂に開かれた千餘名の參會者の入塲に續いて後藤外相水野內相岡田文相大島陸相加藤海相井上府知事を始め百餘名の來賓が入塲し會塲の空氣漸く緊張して來る軈て戸山學校軍樂隊の奏する君ヶ代の樂の音に一同

▲襟を正して　から早川千吉郎氏の教育勅語と戊申詔書の捧讀があつた青年團中央部理事一木博士の開會の辭終るや寺內首相代理後藤外相の獎勵の辭に引續いて水野內相岡田文相大島陸相加藤海相の順序で大同小異の獎勵の辭を朗讀した井上東京府知事の歡迎の辭の終りを告げ司會者伊達理事の推薦に依り一木博士は全國青年團の

▲宣言を朗讀　し滿塲一致の贊同を得る軍樂隊の「帝國青年の歌」の奏樂あり暫時休憩することゝなつたがこの間に仲小路農相が遲れ馳に馳つける講話會の魁を失敬し獎勵の辭をやつてサッサと歸つて行つた高柳少將の「歐洲戰爭の推移」田尻市長の「戰後に於ける帝國の地位」安保海軍小將の「歐洲戰亂と帝國の國防」に關する詳細な講話があつて午前のプログラムは閉ぢられた

▲質問攻に會つた　田中中將……午後の協議會

△塲內暫しは色めき立つ

斯くて正午休憩午後二時再會田中高級理事の主宰で協議會に移り議題の全國青年團指導要領を決議するに先だち昨年五月三日內務文部兩大臣の名に於て發布せられたる全國青年團に對する訓令に關して內務省添田地方局長の講話があつた次で田中中將は內務文部兩大臣訓令の趣旨を體し

▲徹底したる實行　を期する旨決議案を朗讀して會員多數の贊成を求めんとするや岐阜縣不破郡長升田憲元氏は「我々官職にあるものが忙中辛うじて閑を得て參會するに至つたのはこの會合の多大の意義を認めたからであつた然るに實際は地方有識階級の集まつてゐる會合であるに關らず一個の

▲代表的意見を陳　べる餘裕も與へられて居ないのは進行を計る必要も認めはする又幹部の認めて最善とする決議案に異議を挿む者ではないが初めての聯合大會である丈にも少し意義あるものたらしめたい」と叫んだので

▲塲內稍騷然き立　つた田中中將はこれ全く時間の餘裕がない爲めに委員の最善と信ずる案を提出して贊同を求むるの餘儀なき理由を述べ更に議題の第二全國青年團聯絡要項に關し市町村內の團體は道府縣郡に於て統一し中央部は進んで全國青年團の聯絡指導に任るといふ決議案を朗讀して贊成を得ることになつた散會されてはと思ふ論客連に

▲發言を求むる者　多く中にも甲府市の今井とかいふ青年會長は會員席と演壇とを取違へて身振り宜しく「哀なる哉」と悲しんでは會衆を苦笑せしめ「情々世界の大勢を考ふるに」と大見得を切つては手を拍つて助けられてゐた次で前記升田郡長の具體案の簡單な說明があつてから田中中將は午後四時閉會を宣したが地方の青年團が軍隊の管理指導から獨立しようとする空氣は塲內の隅隅にまで漲つてゐた

●學者優遇の御沙汰

賜餐の光榮に浴する帝國學士院會員約六十名

五月十三日霞ヶ關離宮にて

畏き邊りにては帝國學士院會員約六十名を五月十三日正午青葉に風薫る霞ヶ關離宮に召され賜餐の御沙汰あらせられたることは昨報の如くなるが同會員の特に

▲賜餐の光榮に　浴したるは全く今回を以て嚆矢とすると同時に同會員一同の名譽や實に甚大なりといふべし抑も同會員は碩學鴻儒の團體なりと雖も最初同會の設けられたる頃は宮中に於ても政府に於ても別段其の優遇法なかりしが大正元年九月不圖も明治大帝の御大葬儀に際し時の法制局長官岡野博士の建案に依りて同會員

▲不文の勅任待遇　として獨立の地位を設けて奉送せしめたるは同會員待遇の始めともいふべきもの也爾來年一年と同會員は社會に重んぜられ大正三年十二月には政府は勅令を以て同會員を勅任待遇とし茲に於て同會員は三大節の參賀は申すまでもなく其の他宮中の盛儀には其の都度公然參列の光榮を擔ひつゝありしなり其の他實用的の優遇としては昨年の暮に

▲政府は同會員　一同に鐵道院の特別乘車劵を下附し居ること也然れども畏き邊の特別の賜餐の如きは全く先例のなきことなれば當局に於ても一時躊躇の色ありしなるべけれど穗積新院長の熱誠と波多野宮相の英斷と相俟ちて始めて學者優遇の新例を我が宮中に觀ることを得たるを喜ぶものなりと

●愛の矛盾にすゝりなく美人

▽斬られましたと　戀しい男へ不利の證言

四月廿七日午後一時東京地方裁判所刑事第二號法廷に引立てられた一青年があつた、その青年の姿が嚴めしい扉の中に消ゑると直ぐ其後から驅け寄つて一人の若い美しい婦は冷たい扉に面を押し付けて廷內の樣子を氣づかへる容子に見ゑたが堅く閉された扉からは男の足音する洩れて來る譯はなかつた婦は絕望的に歔泣を始めた、而して「耐へて下さいほんとに妾が惡かつたんですから…」と

▲人目を耻ず　に繰返した、それから物の一時間も經つた頃邊に扉が開かれた、老廷丁が木村裁判長の命を受けて證人として訊問すべく件の婦を呼び入れる爲なのであつた、婦は待焦れて居たものを許された時のやうな喜悅の微笑を浮めて怖る〱廷內に歩み訊問臺の前へ首を垂れて立つた、而うして裁判長の審問に對して次の如な陳述を爲した「……芝櫻田伏見町十一小林重郎の妹ヤス（廿四）と申ます津田知義（廿一）さんは〇〇法律學校に通つてゐて鄕里福岡のれ家が

▲相當な財産家　である事も存じてゐます、知義さんと關係が出來たのは昨年二月時分です、妾は日本橋の伴傳商店の交換手として通勤して居ました、行く〱は夫婦になる心算で芝田村町湯淺周造方に同居してゐたのですが知義さんは誠に優しい癖に嫉妬深くて妾が遲くなりでもすると怒つて種種つらく當る事杯あるんで妾もよせば好いのに貴郎許りが男ぢやない他に可愛がつて吳れる男が澤山あると申したもんですから知義さんは非道く怒て

▲妾を短刀で　斬つたのです……イエ斬られても突かれても妾は知義さんを憎いとは思ひません」と眞實込めた證言をして又淚も沈んだのであつた、それから婦は岩村檢事の論告横山辯護士の辯論事退廷を命ぜられたが男の身の上が氣掛りでか少し隙間のある扉の前に身を擦り寄せ午後三時閉廷する迄佇んでゐた

△△鹿兒島便り

●損害金八萬圓

權利なくして區有財産を賣る

▽種子島の山林爭ひ

熊毛郡中種子村納官山林業丹羽奥之藏、岩坪甚安の三名を相手取りて鹿兒島地方裁判所に提起せる損害賠償請求の訴訟は近來の

△大事件　なり今原告の主張する處によれば同郡南種子村中之字和島山三七五〇番の大なる一號山林二町四反六畝二十歩外二十四筆の土地に生立する目通り三尺以上の松木全部は中之區民の共有にして被告等三名は之を賣却するの權限ありと稱し原告に對し入札に加はるべく勸誘したるにより原告は被告等に之が處分權あるものと認め大正六年七月二十一日入札に加はり原告は

△最高價　にて落札し同日二十三代金四千五百五十圓にて買受けの契約をなし內金千五十圓を支拂ひ多數の職工及杣を雇入れ事務所を設けて製材に着手し殘金の內二千圓は同年十月三十日、千五百圓は本年十月三十日に支拂ふべき約束なりし故昨年十月三十日約束通り二千圓を支拂はんとしたるに被告等は故なく之が受領を拒みたるを以て原告は同年十一月二日之を供託せり然るに被告等は同日附を以て該山林立木の

△處分權　は自分等に屬せざることを發見せるより前契約は之を解除し尙ほ損害の賠償をなすべき旨を通知し同年十二月六日南種子村長川東時盛より該山林は村長の管理に屬するを以て製材を中止すべき旨の通知ありたるにより原告は已を得ず事業の中止をなし同時に被告又は村當局に對し圓滿なる解決を告ぐるに至らんことを交涉したるも其効なく村當局は前記代金と同額にて他に賣却せり然れども原告は被告等が賣主たるの責を重んずべきことを信じ本年三月十四日附を以て若し被告等に

△其權利　なければ同月中に該權利を取得して原告に轉すべき旨を催告したるに被告等は到底其事不可能なる旨を同答せり之に由つて之を觀れば被告等は其權利の自己に屬せざることを知りながら賣買契約をなしたるものなること明かなり依つて原告は已を得ず前契約を解除し製材に關して支出せる費用千八百九十八圓六十八錢五厘及び該事業により得べかりし利益の喪失七萬八千七百五十八圓の賠償を求むる次第なりといふに在り

△△廣島便り

●廣島で自動車の女運轉手が出來る

貸自動車營業側ら柴義彥の計畫

故柴少將の令息義彥氏は今回市內西魚屋町に貸自動車商會を經營する事となつたが氏の第一の目的と云ふのは自動車運轉手の養成にあつて營業は其目的貫徹の一手段としてなすとの事である從つて賃金の如きは從來より低廉で一般公衆に

△自動車　なる物の利用法を了解せしめれば足ると云ふが右に關し氏は更に次の樣に語る「元來都市の發達には交通機關を利用しなくては駄目で換言すれば一處と他所の距離を短縮する事が必要である而して汽車便なき地方では此自動車を

△利用し　町へ買物に出掛けるとか急病の塲合醫師を迎へに行くとか云ふ風にしたいものであるが之れが爲には良運轉手の養成が必要で漸次此方面に向つて事業を進めて行く考へである男女に就ても前科者は決して

△採用は　しないで人格の點に重きを置く考へである又女子は何れかと云へば物事に綿密だから其方の養成も大にやる計畫である何は兎もあれ目下本市では自動車に關しては何等の法規もないから保安課に出願した上一時も早く諸般の事柄を調べ度いと思ふ」云々

●山林八十町歩燒く

▽焚火の不始末より

雙三郡三次小林區板木保護區管內の國有林より四月十九日午後一時發火し同山林三十町歩民有林五十町歩價額合計五千百圓を燒き盡して同七時鎭火したるが原因は同國有林安瀨平山に於て雙三郡川地村中川寬市買受の松割木を高田郡小田村松田丈策が運搬中十九日晝食の爲め焚火したる火の不始末より發火したるものなりと

●廣島のチブス

▽昨日は僅に三名

廣島市に於ける腸窒扶斯病は一時猖獗を極め二十二日迄には六百十六名に達したるが其中百九十六名は全治退院し百十八名は死亡し現在にては三百二名の患者を船入病院に收容し居れるも昨今にては漸く終熄の期に近づき日々該患者發生數を減ずるに至り昨日（四月廿六日）は僅か三名の發生に減じたり

●麥作發育狀況

本年の麥作狀況は舊冬降雨多く次で旱魃なりし爲め播種の期遲れし地方あり從つて麥芽の發育思はしからざりしが其後天候の快復に連れて發育狀態大に改善せられ今後の天候にして順調に進まば播種の早かりしものは平作以上の良作たる可く又遲れしものは大に見直し來る可しと

◎文苑

◉東京から（下）

中溝新一

それに新年增大號に「機械の音を聞きつゝ」といふ一文のうちにあなたの現在狀態を知り且つ所在地も知れたのですが其地名の書き方が判からないので他の讀者には可成迷惑だとは思ひましたが本紙の文藝欄の幾行かを借用した次第です。

翁長兄！

君よ君よ忘れたまふな横須賀の稻荷ヶ谷戸の柘榴ある家

此歌を作つた時の私の心持が今一度あなたの眼に觸れてそして靜かに來る追憶の新しさから甦へることが出來たならば私は此處に云ふ程の事はありませんが私は永遠に刻んだ力に心強さを感ずるのです、四方山々の青い樹々に包まれてゐて恰度何處かの谷底を思はせるやうな横須賀の稻荷ヶ谷戸の私のちいさい家はそれでも高い石垣の上にあつたので春が來れば櫻花は遠慮なく開いて私達の比較的貧しかつた生活にさへ幸福を與へたのでした。家ころ違つてはゐますが私は所謂町の空氣から超然とした此處に生れて幼稚園や小學や實業學校を卒業する二十年弱を過ごしたのでした。幼年時代から少年時代への追憶のうちに可成深い印象を與へたものは白の勝つた茶色のお釜帽子（私達はかう呼んでゐました）を無造作にかぶつて懷ろには必然二三冊の詩集やら歌集を潜ませてやつて來たのはあなたでした。何かの機會からあなたは殆んど每日學校のことさへなければ私の家の玄關を開けてゐました。それだけ私の一家は私の兄さんのやうに喜こび每日心待ちしてゐたのでした。おばあさんを始め私の兩親、姉そして澤山な妹達は其當時眞實わけ隔てなくあなたを迎へたのでした。あなたの美くしい手蹟は妹と從弟とを敎へあなたの新しい頭腦は私に文藝を敎へロビンソン漂流記の可成六ッかしかつた英語を敎へました。其當時は私も商船學校の試驗を夢想してゐたのでした。

ほんとに慕はしい翁長兄！それこそ今あなたが聴いて居られるモートルの響のやうに池の端の山本の家のミシンを思出して下さい。山本は鎌倉の師範を出て横濱で先生をしてゐます。あなたが居なくなつてから横須賀の文壇ではあなたに袂別の寂しさと祝福を祈る爲に翁長如星氏を送る歌を公正新聞に連載したのですが殘念なことに其切拔を失つて仕舞ひました。しかし其の中には大橋宇之吉氏が居られたことは慥かです。

翁長兄！

お互ひに長過ぎた沈默の中から私は約四ヶ年半支那へ行つて折角勉強したものでしたが一年余りの病氣から再び内地へ歸つた時には私の父も海軍の役をひいて一家揃つて東京へ引移つてゐたので再び私は故鄕の追憶を心ゆくまで爲し得ないのでした。大正元年恰かも　明治天皇の崩御に國民は目を泣きはらしてゐた頃なのでした。

翁長兄。もう私はたへられません。余り無趣味な記事に讀者の迷惑を考へては余り長く書き續ける勇氣はありません。たゞ、あなたのどの歌にも眞實な生活に對する人間の不安、悲哀、その癖堅い決心を省察し得て滿腔の同情と共に健康の爲に總ての祝福を祈つて居りませう！そしてせめてもの時報の到着を待ちあぐむで居りませう！全くあなたは男らしい沈默に打勝ちました。しかし私が東京の一室であなたの文や詩歌に心を躍らしてゐたことは夢にも考へなかつたでせう？

嘘明神（上）

いつの昔、何處の誰が建立したのか、ある村の丘の上に、嘘明神といふ小さなお宮がありました。

嘘明神！何の神様をお祀り申したものだか分らぬながら、お願をかけると、屹度嘘つきの癖を直して下さるといふので、嘘つきの子供を連れた親達が、月に五人、八人、時には十四五人もお願をかけにまゐります。

その嘘明神の丘の上に、一軒のお百姓家がありました。梅が散つてこれから桃だといふ時候に、朝からバラ／＼霰が降つて馬鹿に寒かつたある日の暮方、世の中には、こんな老人もあるのかと思はれるくらゐのお爺さんがそのお百姓家に杖をつきながらやつて來まして「何を隱さう、私は嘘明神ぢや、今夜一晩泊めて欲しい」お百姓家では驚きました。「ナニ貴下は嘘明神樣？　丘の上のあのお宮の？」「さうぢや／＼、かうして人間になつて來たのには深い譯がある、永年近所にゐたのも何かの緣ぢや、迷惑でも今夜一晩、たつた一晩泊めて欲しい」

どうも全く不思議千萬、どういふ深い譯があつて神様が人間になつて泊めて呉れと仰しやるのか、さつぱり合點のいかぬ話、だが深い譯があると仰しやる通り、無論これには深い譯があることだらうと、さあ「それではお泊め申しませう、さあ／＼どうぞ此方へ」

嘘明神のお爺さんを、圍爐裏の傍へお上申し、「暖かいお雑炊、一ぱい差上げて見ませうか如何でございます」「お雑炊、何よりの好物、それではよ一椀振舞つて貰ひませう」「器が甚だ粗末でございます」とお椀に盛つたお雑炊を、お盆に載せて出しますと、旨さうに一椀食べて、「あ、あ、百六十八年目に、人間の食物を食べて見た」「へゑ、百六十八年目に？」とお百姓家の主人も女房も大呆れ、「兎も角も、これから私の深い譯を物語らう」と、嘘明神のお爺さんはお雑炊のお椀とお箸をお盆に置いて「私は長崎の金比羅山といふ山の麓に生れたもので、嘘つきの名人ぢやつた、私に虚言をつかれて迷惑したものが何百人あるか分らない

中には私のウソゆゑに親子で斬りあひをしたものもあつたし夫婦別れをしたものもあれば、すつかり財産をつぶして乞食になつたものもある、私はそんなものを見る度に、私がついたウソの力の大きさ強さに感心して、この鹽梅で行つたなら長崎は愚かなこと、日本六十餘州でも自分のものにされさうぢや、こりや面白い、ウソの力で天下を取つたものはまだない筈、一つ江戸に乘り込んで、先づ江戸八百萬石から手に入れようと、長崎の町を十足ばかり踏み出したかと思ふ頃、天から大きな手がニユツと下つて、不埓な奴ぢや、と私を一摑み、

子供倶樂部

▲禿頭は二倍の手數

或日つる／＼禿げたおぢいさんがとこやにやつて來ましたが、できあがると、

お客「いくらだね」

とこや「二十錢いたゞきます」

お客はよろしいといひながら十錢銀貨を一つとこやの主人にわたして、さつさと歸らうといたしますから、主人があわてゝ

とこや「だんなこれは十錢ぢやありませんか、かりこみは二十錢ですよ。」と申しますと、お客はつるりと自分の頭をなでながら

お客「ハッ／＼／＼、此通り俺の頭は毛が少しゝかないんだから半分でよからうと思つたのさ」

とこやはぬからぬ顔をして

とこや「いや、その代りあなた樣のは一本／＼づゝ毛をさがしだして苅分けなければなりませんから、手數が二倍も三倍もかゝります」

と申しましたとさ。

▲米の種類

徒弟學校で先生が理科の時間に、「米には幾種類ありますか」と尋ねますと、米屋の小僧さん米吉と、車屋の子供の飛藏さんが一緒に手をあげました。

米吉「先生、白米と玄米であります」

飛藏「まだ其他に南京米があります！」

▲語るに落ちたり

日曜學校で先生が「神様は何でも見そうしだから、人が見て居ないと思つて惡い事をしてはいけません」と敎へると茶目太郎は急に困つたやうな顔をして、

茶目「ぢや先刻僕がお母樣にだまつてお戸棚からお菓子を出したのも神樣は御存知でせうか………」

芳香美味　竹印醬油　一瓶一釺五百レース

聖市モッカ街五二六番

竹細工部、醬油釀造部

大澤商店

木藤商會へも本店同樣御愛顧願上候

R. da Mooca 526, S. Paulo

廣告

CASA JAPONEZA

Rua S. Sebastião No. 18

Ribeirão Preto...E....S. Paulo

廣告

弊店には日本玩具一切西洋小間物類並に種子物、日本陶器、藥品、等があります

同胞諸君には特別の安價を以て販賣仕り申候

リベロンプレト市　サンセバスチヨン街一八

小山、森合名商店

廣告

青年苦學者（葡萄牙語）の爲め便宜を計るの主意を以て年齡二十歲前後身體頑健の青年十名左の條件のもとに職業を與へ勉學せしむべくに付志望の方は左に申込ありたし

一勉學時間每夜二時間乃至三時間

一敎授方法は確實に且親切に敎ゆ

一給金は食事付一ヶ年三百ミル

一成績良好ならば賞與を與ふるの方法もあり

尚ほ詳細は御問い合せあり次第懇切に回答す

福川薩然

Fazenda Lageado, Secção Matta

Estação Conquista, L. Mogyana

Estado de Minas Geraes.

カンブイ耕地

◉新植付　本年植付さるべき珈琲樹數は六十萬本にして六年契約手入受負に應ず

◉特點　一年契約のコローノには米豆唐黍の植付に適する土地を好み次第に貸與し又獨立農夫に對しても無償にて且無制限に宏大なる沃地を供す

◉概況　當耕地は二百萬本の珈琲樹を有し、總面積二萬六千アルケールを占め耕地内を横斷する鐵道は十二驛を以て通ず、目下百六十余の日本人家族あり

◉一と度當耕地に來つて同胞諸君に問合さば農夫の爲め有らゆる有利條件を提供しつゝあるを知る可し、即最良の氣候運搬の便、穀物耕地のため供給すべき無限の土地生産力旺盛なる齡六七年の新珈琲樹園每二ヶ月の全勘定支拂、收穫物賣却の自由等を目擊すべし

◉詳細は左記へ問合され度し

Guido Traballi,

Fazenda Cambuhy

Mattão

◎貸地あり

◎場所ソロカバナ線ビアド驛

◎耕地名サンタ、アナスタシヲ

◎地主フランシスコ、デ、パウロ　グラルテ

◎貸地總面積十ミルアルケール

◎借地反別は借り手望み次第

◎借地料は作物收穫高の廿分の一納入のこと

◎借地契約期間は二ヶ年滿期の際カツピンゴルヅーラ播種の事但し種子は地主より供給す

右の土地は綿、マモナ、豆、馬鈴薯、米麥其他農作に好適にして伐木開墾費等一アルケール百二三十ミルに過ぎざれば農作物高價の現今に於ては小資本の人及び土地購入の資本を作る爲めの一儲けには最も適當なり志望者は速かに申込あれ、尚ほ御照會の件あらば左の兩名の中孰れへなりとも御一報次第懇切に御回答申ます

久谷健之助

K. Kuya

Estação Taipas

Linha Ingreza.

弓削九郎治

K. Yugue

Estação B. Campos Doradão

Linha Sorocabana

日本金兩替

●古本買入並に御不用品買入可申候

○尋常小學敎科書壹年級より六年迄全部一揃四十四冊四十釺送料二釺○模範英和辭典送料共十一釺○漢和辭典送料共九釺○西洋料理研究書各種○金澤新著ブラジル語會話送共三釺○講談本五百餘種表裝付一冊二釺より二釺五百○修養書類及文藝作品五百餘種、歌本各種

◉せんべい燒型

血の道藥中將湯實母散及諸藥目下品切、日本よりは來る九月頃入荷の豫定に御座候

○大工用ヤスリ小七百、中八百、大八百、○土佐鋸ヤスリ一釺○ノミ柄輪金大小○剃刀砥石七釺○大村砥石十釺（目方約五キロ）○本山青砥石十二釺（二キロ半）○タ、キ六分ノミ二釺五百レイス、同八分三釺○金剛砂一袋五百○其の他大工道具類各種○大算盤八釺○ポケット入そろばん各種○トカシくし○スキくし○かもじ○口紅○白粉○日本齒揚子○齒磨粉

◎御注意

御注文は弊店より物品發送の節御送達に間違なき様御地の耕地名、停車場、線路等御明記被下度願上候

御注文は物品の價格及送料金を加へ是非共御送金被成下度願上候御送金なくして往々御注文の向き有之候も御指定の物品は御入金の上に非らざれば一切御送品仕り申さず候間何卒御諒承被下度願上候

◎種子物類

○時なし大根○九日大根○練馬大長大根○夏大根○方領大根○櫻島なかて、おくて○二つ寺大根○山東菜○大王蕪○時なし小かぶ○白莖體菜○朝鮮白菜○千筋京菜○天王寺かぶ○大王白菜○赤莖ごぼう○らつきよ○みぶ菜○大長赤太人參○みつば○ちりめんかぼちや○千住大葱○ふたんそう○ほうれん草○大とうがん○黄からし菜○葉からし菜○以上一袋三百、五百、一釺○大根及菜種子に限り一合二釺五百　□○花菖蒲五種類○芍藥五種類○花に限り一袋一釺以上全部日本純良品　□○聖州産大豆種子リットル六百○數の子一キロ五ミル○こんにやく粉一キロ十五釺○にがり（かたまり）一キロ四釺

●貸本可仕候

ブラジル時報市内申込所

聖市コンデ　サルゼーダス街五一番

木藤商會

KIDO SHOKAI

大澤醬油取次所

Caixa Postal 1466

R. C. Sarzedas 51

S. Paulo

◎東京電報

●日本と南洋諸島

日本政府は日獨戰爭によりて占領したる獨領南洋諸島に民政を布くことに決定せり（東京發七日直電）

●西比利亞に於ける獨墺捕虜兵

哈爾賓來電に依るに西伯利亞より來着したる北米人團の談にイルクツクには獨墺捕虜兵一萬屯營すと（倫敦發十一日電）

●獨逸大使暗殺さる

露國ソブイエツ政府に獨逸を代表する獨逸大使ミルバツハ伯はモスコに於て暗殺されたり犯人は逃亡して行衛不明なり（倫敦發七日電）

●浦鹽斯德に聯合陸戰隊

浦鹽斯德來電に依るに日英米の聯合艦隊は領事館所在地附近の安寧秩序を圖る爲め陸戰隊を上陸せしめたり（倫敦發七日電）

○東京電報（桑港近信）

「五月廿五日」

●南北首領皆な協約を認む

日支軍事協約大勢好良

日支軍事協約に反對なりし南方の諸領袖南方壓迫の爲めの軍事協約に非ざること及び支那の領土權を侵迫せるに非ざること明白となりし爲め同協約を承認するに傾けり北方諸領袖は始めより同意なり

●後藤外相讓歩して無事落着す

外務省より霞倶樂部の退去を命じたる外相後藤新平男は都下新聞記者聯合の抗議に會し包圍攻擊を受くる前讓歩して右の命令を取消し無事落着せり

●地中海日本艦隊の奮戰

敵艇も一層活動　我艦隊も大活動

地中海に在りて聯合國艦隊と協同活動中なる日本驅逐艦隊は最近從來よりも一層旺んに活動し海軍省は次の如き公報を發したり

「最近敵は晝夜とも特殊の活動を爲し居るより我艦隊も從來より猶一層其活動を旺んにし敵艇との交彈も一層頻繁となれり五月三日我が驅逐艦隊は數隻の聯合國運送船を護衛航行中運送船一隻は敵艇の爲めに擊沈されたるにより我が艦隊は同船の乘組員一同を救助したり我艦隊は引續き四日五日の兩日敵艇隊と交戰したり但此交戰の結果は未だ分明ならず

●官僚再度清浦內閣組織運動

▽清浦一木兩樞密顧問山縣公訪問

本日清浦子一木喜德郎兩名同道山縣公を訪問し後繼內閣組織に關し鼎座密議數刻に及びたり清浦、一木と山縣公との後繼內閣組織談合より推し官僚派にては最後の窮策として前に流產せる清浦內閣實現を計畫し其の運動に着手中なる事疑ふべからず

●日米國會議を東京に開催

日米共同作戰と兩國の親善上兩國際間の交涉倍〻頻繁たるより兩國際間の諸種の問題を圓滑に解決し更に親善關係の增進を助くる目的にて日米國際會議を近く東京に開催するに決定せり

●福岡縣下に大無線局を設立

豫て計畫中なりし南日本南支那及び太平洋を連絡する大無線電信局愈〻福岡縣下に起工されたり

◎雜報

●伯刺西爾醫員隊佛蘭西行

佛國政府の要求に應じ外科醫五十名醫學生團及び警護隊より成る伯刺西爾醫員隊は歐洲の戰野に派遣さるることとなり近〻出發するに決定したる由なるが隊長はナブコ、デ、コーブエーア氏なりと云ふ

●當州農業の盛況

州農商務省の發表せる處に依れば當州に於ける本年度の收穫は前年度に比し太だ豐澤なり

モミ	一千九百十六年―十七年	二百五十九万二千百五十七俵（百リツ）
	一千九百十七年―十八年	三百二十万七千三百五十五俵
豆	同	二百五十六万九千五百四十俵
	同	二百九十二万一千七百三十俵
玉蜀黍	同	一千二百十三万三千六百三十八俵
	同	一千三百三十四万七千八百俵

米は郡に依り一割乃至三割の增收なるが全州を通じての平均は二割三分なり、豆は一割二分の增額あり、玉蜀黍は一割の增收を見たり、前記の產出高より播種用及び州內消費高

米	百三十六万八千俵
豆	百九十万八千俵
玉蜀黍	一千二百六十万俵

を差引く時は輸入し得べき高は

米	百八十三万九千三百五十五俵
豆	百〇一万三千七百三十俵
玉蜀黍	七十四万七千八百俵

となるなり、當州百七十一郡中米の產出最も多きは

リオ、プレト	四十二万俵
イグアツペ	二十八万
モンテ、アズル	十八万
サソタ、アデリヤ	十四万
ガタンデウープア	十二万
カンピーナス	十二万
トレメンベー	十万
イポタリス	十万

にして豆の產額最も多き郡は

リベロン、プレト	十六万俵
ピーダーデ	十五万
セーラ、チグラ	十万六千
サンジヨゼー、ド、リオ、パルド	十万
カンピーナス	八万五千
サンタ、アデリア	七万六千四百
モジミリン	六万
カタンデウープア	五万
マトン	五万

等なり而して十四萬俵以上の玉蜀黍を產出せし諸郡は次の如し

カンピーナス	三十五万俵
リベロン、プレト	二十九万
アテバイア	二十七万五千
ピラテニンガ	二十六万
アグードス	二十二万五千
タウバテー	二十二万
サン、ジヨゼー、ド、リオ、パルド	二十一万
プラガンサ	二十万
サンタ、アデリヤ	二十万
サンカルロス	十九万
セルトンジーニヨ	十九万
アピアイー	十八万
アララカーラ	十八万
イタポリス	十八万
ジヤボテカバル	十八万
ジヤウー	十八万
サン、ジヨゼー、ダ、ボカイナ	十六万五千
サン、シモン	十六万五千
カジユルー	十六万
サン、マヌエル	十五万五千
アブアレー	十五万
ベベドーロ	十五万
ボツカツー	十五万
カンボ、ノーブオス、パラナパチマ	十五万
イタペセリカ	十五万
リメーラ	十五万
モジ、ミリン	十五万
ピラシカーパ	十四万五千
デスカルブアード	十四万五千
イグアツペ	十四万五千
クーニヤ	十四万
サンタ、クルス、ド、リオ、パルド	十四万

●若狹丸入港は來る十六日

昨日ケープ、タウンよりの電報に依れば移民船「若狹丸」は去る三日ケープ、タウン拔錨サントスニ向いたる由なればサントス入港は來る十六日なるべしと。

●人事來往　西原清東氏は一昨日出聖本日歸園の筈▲佐藤初太郎氏は土地の測量を引受け一ヶ年の豫定にてビンダモニヤガーバへ向け本日出發

廣告

移民船若狹丸（本月十六日サントス港着豫定）は家族移民滿載の爲め同船便乘の筈なる呼寄は次回船に便乘渡來することと相成候に付此段關係者諸君に通告候也

七月十二日

伯刺西爾移民組合
伯國支部

○西方奮起頹勢盛返す

□東京大相撲夏場所勝負

▼武者振雄〻しき千葉大汐の兩雄

▲福柳復も浦ノ濱を土俵に匐はす

轟き渡る櫓太鼓の響、日一日と滿都の人氣を唆り立て、中日を前にする今四日目は病氣に負傷に休場力士の尠しとせざるにも拘はらず、押すな〳〵の大賑ひ滿場立錐の餘地無き盛況、勸進元のホク〳〵顏左こそと察せられたり。

▲四日目

勝		負
三杉磯		岩木山
大汐		大門岩
福柳		浦ノ濱
千葉ケ崎		常ノ花
源氏山		矢筈山
朝汐	（引分）	對馬洋
栃木山		錦島

▲三杉磯は西方の中堅新進組一方の頭梁を以て任ずる快漢東方に左るものありと知られたる岩木山と渡り合ひ苦も無く之れを屠り去る▲大門岩は初日剛の物▲千葉ケ崎を破りて勇名一時に揚る今日は千葉に次ぐ猛將大汐と顏合せ之れをも同じ手にと企めるも今は夢遮二無二押し捲くられ土俵外に突き飛ばさる大汐の大關や遠からず實現されんか▲福柳は初日鳳を轉ばして殊勳の第一に數へられしも引き續く二日目三日目は千葉に次で朝汐とあり遉がの彼れも施こす策無く轉業したりしが今日は昔の花形西方切つての手取巧者の成れの果浦ノ濱と戰ひ奮起一番之れを敗る▲千葉ケ崎は大關朝汐を倒した常ノ花を美ン事擲き附け兄弟子の恨みを雪ぐ▲源氏山は西の新入幕矢筈山を土俵の砂に埋むと云つて彼れとしては當然の事鼻高うするには當らざる可し▲朝潮の對風洋と分けたる六尺豐かの對馬を料理す可く▲遉がの老雄も漸く易からずなりしを示すものにして數場所前の彼れをしのび感慨轉た切なるものあり▲栃木山の錦島を一蹴し去れるは豫定の一番と申すより外無かる可し

聖市物價表（十二日）

品目	等級	價格
豆（フエジヨンブランコ）白 六〇基	（上）	二三、五
	上	二二、五―二三、〇
	中	二二、〇
精米アグリヤ特等六〇基		三八、〇―
仝	上	三六、〇
仝	中	三四、〇
仝	下	三三、〇
もみ 六〇基	上	
精米カテツテ特等六〇基		三四、〇―三五、〇
仝	上	三二、〇―三三、〇
仝	中	三一、〇―三一、五
仝	下	
もみ 六〇基	上	二二、〇―二二、五
唐黍（ミリヨ）（黄） 六〇基	上	一〇、〇―一〇、五
	中	一〇、〇
仝（白）	上	一〇、〇
	中	九、六
フバ（白） 百リツトル		七、五―八、〇〇
馬鈴薯（バタチーニヤ） 新 六〇基	最上	一五、〇
砂糖（アスーカル） マスカボ 六〇基		二九、五―三〇、〇
クリスタル 六〇基	上	五五、〇―五五、五
棉花（アルゴドン） 實付き 一アローバ		二〇、〇―二一、〇
煙草 ゴヤノ 一基		五、〇
アルフアフア 一基		

爲換

英貨 一磅	伯貨	一九釬五九一
日貨 一圓	伯貨	二釬〇七九

尋人

原籍　高知縣長岡郡三里村
松本伊勢市　年齡三十才

右七年前サンパウロ州に上陸せしも三四年來更に國許へ音信なく生死の程も不明とて父松太郎より帝國總領事館へ搜索方願出たるに付き本人又は同人の現住所御存知の方は本社宛て御一報ありたし

伯刺西爾時報社

△高尙で、安くて、たいし―
△御みやげ物には峯月堂の御菓子にかぎる
製造販賣元　峯月堂
聖市コンデ、サルゼイダス五三番
△紅梅饅頭、滋養饅頭
△京鹿の子、靑柳餅
△蒸金鍔、蒸羊羹、其他

◉改稱及移轉廣告
從來テーエム合名商店の名儀の下に營業罷在候處今般左の如く改稱致し左記の處へ移轉仕り引續き營業致候間倍舊猶一層の御引立の程奉願候　敬具
大正七年七月
味噌醬油雜貨化粧品及貨本　森口商店
森口宇吉
コンデ、デ、サルゼーダス街八十九番
Rua Conde de Sarzedas No. 89 S. Paulo

珈琲と綿の歩合作人募集
珈琲園の手入採取と畝間の綿作とを目的とする歩合作人數十戸を募集す作人は珈琲及び綿花收穫の若木の塲所ならば半額、古木の塲所ならば三分の二を所得し、家屋、食料及び諸穀物耕作に適良なる間作地を貸與す地味肥沃にして手入行屆き居り且つ今回の霜害を免れ明年度の收穫多大なる見込みあり
契約期間は望みに應ず、入耕は九月十月間、御照會次第明細書を送呈す
申込所
SEITOW SAIBARA
Estação P. João Alfredo
(Via Piracicaba) L. Sorocabana
E. de S. Paulo
ポルト、ジヨアン、アルフレツド
西原農園

▷トウミ（唐箕）賣出し◁
職工（多年經驗ある方）募集
自宅勞働の便もあり委細當店に問はれたし
カーザ東京
本店　聖市バロン。デ。イタペチニンガ二〇
支店　ラデイラ。サンタ。エフイゲニヤ二九
電話　三〇三六（セントラル）　電話　一九六三（シダーデ）
郵函　一〇〇五
CASA TOKIO
R. B. Itapetininga, 20 Tel.3036-Central " 1963-Cidade

米國式洋服裁縫
矢部洋服店
コンデ、デ、サルゼーダス街四六
電話　四五五九（セントラル）

BEBIDA ESPECIAL
FABRICA DE GAZOZA
ARAÇATUBA
Linha Noroeste, E. São Paulo
廣告
サイダー製造所
穀物仲買に關し高橋商店より出張
尙美利具比植民地入植者に對して便宜を與ふ
ノロエステ線
アラサトバ町
停車場前
高橋商店出張所
安瀨盛次

12 de Julho de 1918 No. 45
Noticias do Brazil
大正七年七月十二日　金曜日　第四十五號

第四十五席　吉岡兼房孝內をこらす

雙鎌に掛けて右へ引けば矢は折れたり三の矢先の飛び來るを刎上げる四番目の矢飛び來るを體を開けば覺禪の頭をかすつて飛んだり途端に續いてヒユー／＼と大藏院矢を切つて放つ拔けつ潜りつ寶藏院體を轉じ拂つて居る「勝負あつたり」と柳生公大音に呼はる大藏院は「參つた」と聲を上げる人々驚ろいたのは矢を四本しら持つて出ない大藏院何處から斯んなに矢を放つだらうと思ふ丁度前の四本を別に十三筋切つて放す三代公も不思議に思召し何處に矢を所持して居たかと思ふ位是れは大藏院が永年工夫をいたしたのでございまして他から見ると矢を持つて居ないやうだが袴の間や着類の脇壷に穴が明いて居ります其所へシメジ革の矢受が出來て居る其の中へ矢が這入つて居る夫れを十文字にして脊中へ斜めに背負つて居るのをシメジ革の矢受から引出します矢尾を持つて引く分には決して羽根に障りはありません羽根は筈掛の方へ引く人は一人もありません此の妙手は實は感心なもので勝負は大藏院が負けでございます負けだが人に氣の附かない所から矢を出した是れも一ッや二ッの物なれば何所へでも隱して置けるが二尺以上の物がさう隱して置けるものではない實に美事である尤も前に放つた矢は十三束で跡から放つた矢は箆が詰つて居ります弓術の方では矢の丈の事を箆と申します十三筋の矢は十一束で二束づゝ詰つて居ります併し斯ばかりの妙手を編出したは一流の先生家光公御前へ寶藏院大藏院をお招ぎに相成り勝負は寶藏院が勝であるが御褒美は雙方互角に下し置かれる有難き上意あつて兩人御前體を退りましたが誰あつて大藏院の放れ技を褒めぬ者はありません時に太鼓法螺貝の音に連れ左右の幕張を絞つて御前體へ立出でましたるは京都今出川の住人吉岡憲法の伜又三郎兼房西の方より出でたるは大坂生靈の境內に道場を開いて居ります毛利玄達兩人默禮をいたして立出でる又三郎は親より讓りの八寸三分の小太刀毛利玄達は三十六本の手裏劍を取つて出でる

手裏劍と八寸三分小太刀の立合

此の吉岡又三郎兼房と云ふは吉岡太郎左衞門無二齋の弟子で吉岡憲法の子でございます親憲法は八寸三分の糊箆を使ふ事に妙を得て吉岡流の圓海の小太刀といつて京都今出川に道場を開いて居りまして其の憲法の伜兼房此人性來逹亂で酒の上が非常に惡い御前試合が濟みまして京都へ立戻りましたが相變らず今出川の道場は繁昌いたしてをりまする處が三條通りに中國浪人千葉孝內といふ者道場を開いて居り鞍馬八流と佐分利流の槍の兩流を指南いたします然るに此の孝內は腕前は二の次で世辭の宜い事は武士に似合はない位是れが爲めに大層弟子が出來まする內端にしてゐさへすれば何事もないが弟子が殖ゑると我が自慢を並べ立て今出川の吉岡兼房の八寸三分の小太刀などは素破といふ戰場に用ひて何の役に立つものではないと弟子に吉岡の事を惡口なす我師を惡いと思ふ者はないから千葉孝內が吉岡の弟子で千葉の道場の前を通ると武者窓から覗いて惡口を吐く聞けば闘腹で吉岡の弟子は癪に障つて堪らないから劍突を食はせるので內と外で喧嘩をして居る折に觸れては吉岡又三郎に千葉孝內が貴所の事を芥の如くに罵しりますると云つて告口をしますが兼房性來逹亂だけれども弟子の云ふことは取上げずに置いた、所が或日ベロ〳〵に醉つて三條通り千葉孝內の道場の前を通ると弟子が武者窓から見て居たが　甲「同役又三郎が通るぜ吉岡が通るぜあの醉つた態を見ろあんなに熱醉をして素破と謂ふ時に狼籍者を防げるものぢやアない糊箆劍術が通る」と云ふのが耳に這入つた性來酒の上の惡い所へ逹亂だから立止つて孝內の道場を睨附けてゐたがノソリ〳〵と門を這入り　兼「賴む物まう　○「ドーレ」取次が出ると兼房だから　○「是れは先生お出でなさい　兼「イヤお取次御苦勞でござる千葉孝內先生御在宿ならば吉岡又三郎兼房一本お手合せに參つたと取次がつしやい」取次が奥へ這入つて　○「先生吉岡兼房がベロ〳〵に醉つて先生と立合に參りました　孝「左樣か道場へ通さつしやい」取次再たび夫れへ出て　●「吉岡先生此方へお通んなさい　兼「承知いたした」道場へ通ると中々立派なものだ程なく千葉孝內夫れへ出て參り　孝「是れはお尋ねに預かつた千葉孝內は手前でござる　兼「尊公が孝內先生か吉岡の八寸三分の小太刀は役に立たんなど〻常々尊公門弟衆は云はつしやるさうだが役に立つか立たないか今日兼房一本御手合せに參つた支度をして兼房の對手になつて貰はう　孝「是れは又左樣なことを申した覺はござらんがお望みに任して一本お手合せを願はう」身支度をいたして千葉孝內蛤刃に削り上げた肥前大村樫の木刀を取つて夫れへ立出でる又三郎は腰に差した糊箆を出して　兼「扨て孝內先生の弟子達其處で見てゐなさい劍術は長い物を振廻して乾度强いといふ譯のものぢやアないから後學の爲め目を灰汁で洗つて能く見ろ」ヤッと星眼に附け我が糊箆の先と兩眼と摺はらひに附ける是れは吉岡流の圓海の構へといふ柳生十兵衞公は拳と兩眼と摺はらひに附ける是れを又三郎兼房が覺ゑたものでありますが十兵衞公と同樣の構へでは濟まないから自分は一段下つて糊箆の尖先と兩眼と摺はらひに構へまするヤッと云ふと鶏の毛で突いたほどの隙もない　兼「どうだい千葉先生打込めまい」よし斯うなつたら打込まれるだらうと構へた糊箆を右へ引くと天庭に破れを生じた飽まで俺を侮どるなと千葉孝內眞向より風を卷いて打下ろすヒラリ體を轉したと思ふと飛込んで頭の頂上を厭といふ程糊箆で毆り附けるヨロ〳〵ッとよろけたが參つたと云ふ聲が出ないから又小手を健かに打つ木劍をバラリと夫へ取落し　孝「參つた」と聲が出る　兼「イヤ孝內先生吉岡流の小太刀は斯んなものだ

婦人欄

忘れてはならぬ內助の役目

きよ子

▲世の中に何か騷動が持ちあがりますと、乾度女が引合いにでるのでありますが、今度また日本に起つた八幡製鐵所の疑獄にも、其の裏面には女の虛榮心が潜んでゐると攻擊されて居ります、日本の男は自分で惡いことをして、其の罪の嫁り場がないと自分より弱い女なぞに、難癖をつけたがるので、今度の疑獄も幾分其の嫌いがないでもありませんが、併し奥さん方の虛榮心から出た罪も亦決して少なくない樣であります。

▲然らば日本の女は、みんな虛榮の凝りで、金棒引で、騷動持上げの技手であるかと申ますと、私は決して左樣は思ひません、なるほど多數の中には、性の惡い、無躾な者もありましやうが、其れはほんの一少部分で、どちらかと申せば、日本の女は裏面に隱れて夫を扶け、男を勵まし以て世に大なる事業を仕遂げさす、內助の大活動力を有するもので、此の點から云へば、日本の女たる私共は、世界何處の女性に比ぶるも決して劣るものでないと自信するものであります。

▲其の證據として歷史の中から、一の好い例を擧げて見ますると、誰も知る元祿年間彼の赤穗義士が、た主內匠頭の仇を打たんとして苦心慘憺遂に其の目的を果して名を天下に揚たのでありますが、其の表面に立つて働いた大石內藏之助等の花も實もある活動振に氣を呑れ、裏面に潜んだ內匠頭の後室瑤泉院の中心力が却つて世人から忘れられた傾きがありました。

▲併し瑾の光は永久に滅せざる格言の如く、瑤泉院の隱れた光も大正の御代に至つて明瞭と世に現れ、今は日本婦人の典型として崇め尊ばるゝに至りました、文明の世の今日では仇打と云ふ樣なことは、無論法律でも禁じ、道德でも許して居りませんか、元祿年間武士道を以て社會の道德として居つた時代には、瑤泉院の樣な氣高き女性の出たのが寧ろ誇りとすべきで、私共は其の精神を酌んでお手本とすべきであります。

○りならば瑤泉院は、どういふ處が偉らかつたのでありましやう、例へば兇變後堀部安兵衞が後室（瑤泉院）の許へ御機嫌伺ひに上つた時に安兵衞は

「久しく御機嫌伺ひに上りませんでしたが、ろの譯は餘り度々あがりますと、却て御後室樣の御迷惑になり遊ばしませうと存じ上げて」

と申した時後室は靜かに

「お前達の來ない心は能く分つてゐますから、決して來るには及ばぬが、アノ家老の安井彥左衞門、おれは御家の續きと云ふ身分で、當家に顏を出さねばならぬ筈の男であるのに、兇變後杳として沙汰のないのは不埒千萬なことである」

と答へられたさうでありますが、此のお答へは非常に簡單ですが、實に何から何まで能く見拔いてゐらるゝ後室の偉さは、手に取る樣に窺はれるのであります。

▲また瑤泉院は四十七士一統の心を堅く取結んでゐられたことは、大石內藏之助の帳簿から受取など、總ての報告によつて見ましても明かに了解することが出來るので、後室新自身の化粧料までも、一統の準備費に宛てて目的を達する樣に督勵して居られた處などは、實に模範的の日本婦人として見上げた御行動であります、由來日本の婦人は名を表面に現はさずして、大事を成し遂ぐる處に偉大さがあるので、瑤泉院の偉さも其の長所の極點を發揮してゐらるゝのであると思ひます。

▲然るに今の女は之と反對に、虛榮にあこがれ、男をお尻の下にしてまでも世に顏を出さうと致しますが、これ大なる心得違ゐであると共に昔の氣高の仁人義士の奥樣方に對しても恥入る次第でありますから、私共はこゝをよく〳〵分別して手本を昔しの正しき人に取るべきであります

ANTUNES DOS SANTOS & COMP.
AGENTES DAS COMPANHIAS
NIPPON YUSEN KAISHA :: OSAKA SHOSEN KAISHA

●日本郵船會社
●若狹丸
七月十六日サントス着豫定

●大阪商船會社
●しやとる丸
五月三十日　神戸出帆
八月廿日リオ着　同廿二日サントス着
八月廿八日ベエノスアイレス着　豫定

御用の方は左記の中何れかへ御照會ありたし

伯剌西爾移民組合支部
(Caixa Postal 1082)
Rua da Liberdade 40, S. Paulo.

アンツーネス、ドス、サントス會社
(CaixaPostal 237)
Rua Libero Badaro 93, S. Paulo.

告示

今般當舘に於て在留日本人土地所有者名簿を作成候に付土地所有者は至急左記の事項を屆出相成たし

一、原籍姓名
一、土地の所在地及最近停車場名
一、土地の面積及買入地價
一、地價全部拂込濟の土地券所有の有無
一、年賦拂込の者は其拂込の方法及契約の時日幷に拂込濟金額

右告示す

在サンパウロ市
帝國總領事館
Caixa Postal 1167
S. PAULO.